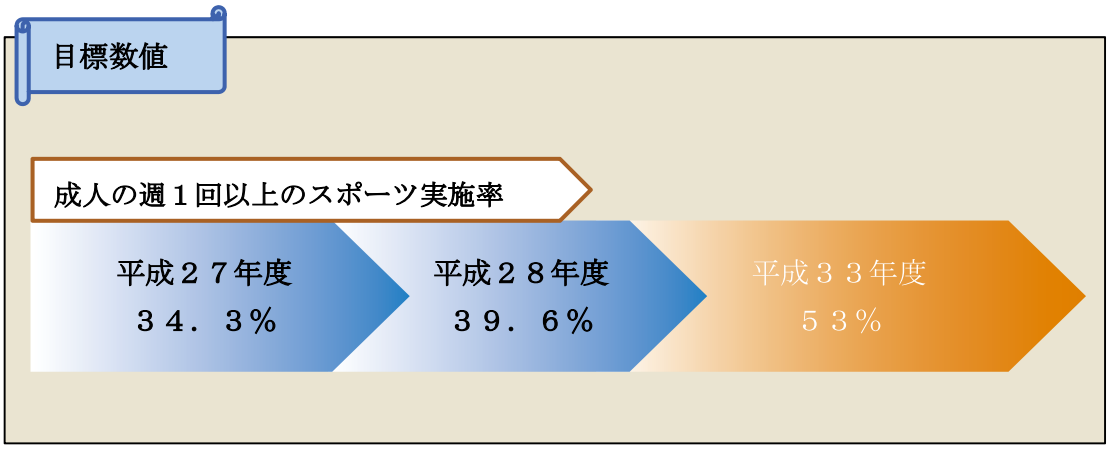
（２）成果指標

従来、成果指標としてきた「生涯スポーツ環境の満足度」については、「３ 従前計画の取組内容と評価」（２ページ）で記述したとおり、調査の状況により数値が変動する可能性があり、成果指標としては適当ではないため、国の第２期スポーツ基本計画及び本市のスポーツ推進計画でも成果指標としている「成人の週１回以上のスポーツ実施率」のみを引き続き成果指標とし、目標数値を平成３３年度５３％とします。



５　計画期間及び進捗管理

本計画は、平成３３年度までを計画期間とする岡山市スポーツ推進計画の中間見直しであるため、計画期間を平成３０年度から平成３３年度の４年間とします。

本計画に基づく施策や事業を着実に推進するとともに、進捗状況については、毎年度、確認・点検を行っていきます。

第２章　現状と課題及び課題解決に向けた基本方針

○　健康志向の高まりや余暇時間の増大により、市民のスポーツへの関心が高まっています。また、スポーツに親しみ、楽しむだけでなく、地域を本拠地とするトップチームを支えるという新たなスポーツ文化が芽生えつつあります。

○　岡山市をホームタウンとするトップチームのファジアーノ岡山（サッカー）と岡山シーガルズ（バレーボール）の観戦者数は近年増加傾向にあります。今後も、トップチームを支える活動を通じて市民の地域への愛着と誇りを醸成し、スポーツによるまちの魅力と活力を高めていく必要があります。

○　スポーツの全国大会・国際大会の開催は、市民のスポーツへの関心や競技力の向上に寄与するとともに、市の魅力を対外的に発信できる貴重な機会となっています。また、多くのスポーツ関係者が訪れることにより高い経済効果も期待できます。このため、大規模なスポーツ大会の誘致・開催に向けた体制強化を図るとともに、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、国内外に向けた岡山市のＰＲや地域振興を進めていくことが求められています。

○　成人のスポーツ実施率は、平成２０年度から平成２５年度にかけて低下したものの、平成２７年度には上昇しています。市民一人ひとりがライフステージや身体の状態・能力に応じて、いつでもどこでも気軽にスポーツを楽しめる機会を充実することにより、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツ実施率のさらなる向上を図る必要があります。

○　こうした現状を踏まえ、①スポーツによるまちづくり、②東京オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興、③スポーツに対する市民総参加の３つの視点から状況分析と施策の方向性について検討します。

１　スポーツによるまちづくり

（１）トップチーム支援

【現状と課題及び施策の方向性】

○岡山市をホームタウンとするトップチームのファジアーノ岡山と岡山シーガルズの支援として、ホームゲームのうち、年に１試合を「市民デー」として、各種イベントを実施し、試合を盛り上げるとともに来場者数の増加を図っています。また、トップチーム選手が市内小学生と一緒に給食を食べる給食イベントの実施や両チームのマスコットをデザインしたマンホールの設置など市民に親しまれるチームとなることを目指したさまざまな取組を行っています。このほかにも、岡山シーガルズの選手のユニフォームに「岡山市」のロゴを入れることで、岡山市の魅力発信にも効果が見込める取組も行っています。

こうした取組やチームの努力、市民の盛り上がり等により、両チームの観戦者数は年々増加傾向にありますが、より一層トップチームの活躍を地域の活性化に繋げていくためには、今後も、トップチームを支える活動を通じて市民の地域への愛着と誇りを醸成し、スポーツによるまちの魅力と活力を高めていくことが求められています。

そのため、今後より一層、トップチームの観戦者数の増加に向けた取組を行うとともに経済界や市民が一体となった支援の拡大を図る必要があります。

（２）おかやまマラソン

【現状と課題及び施策の方向性】

○平成２７年１１月に初開催したおかやまマラソンについては、申込者数が１回目の 24,707 人から２回目には 27,067 人に、沿道応援者及び来場者も１回目の 23 万人から２回目には 29 万４千人に増加しています。また、２回目開催時のアンケートでも「コースの走りやすさ」、「沿道応援」など全ての項目で前回の評価を上回る評価となっており、多くのランナー、観戦者、ボランティアの参加により、市民総参加の一大スポーツイベントとなりつつあります。今後も全国から多くのランナー等の参加を促し、女性の参加の促進等の課題についても検討を行い、「走る」、「みる」、「支える」など様々な形で参加しやすい環境づくりを行いながら、ランナーをはじめとするマラソン大会参加者の満足度の向上等、より一層魅力的な大会となる

ような取組が求められています。また、沿道応援やボランティア活動等を通じて地域全体で盛り上げることにより、市民のスポーツ振興の気運を高めるとともに、地域コミュニティの活性化を図っていきます。

（３）大規模スポーツ大会の誘致

【現状と課題及び施策の方向性】

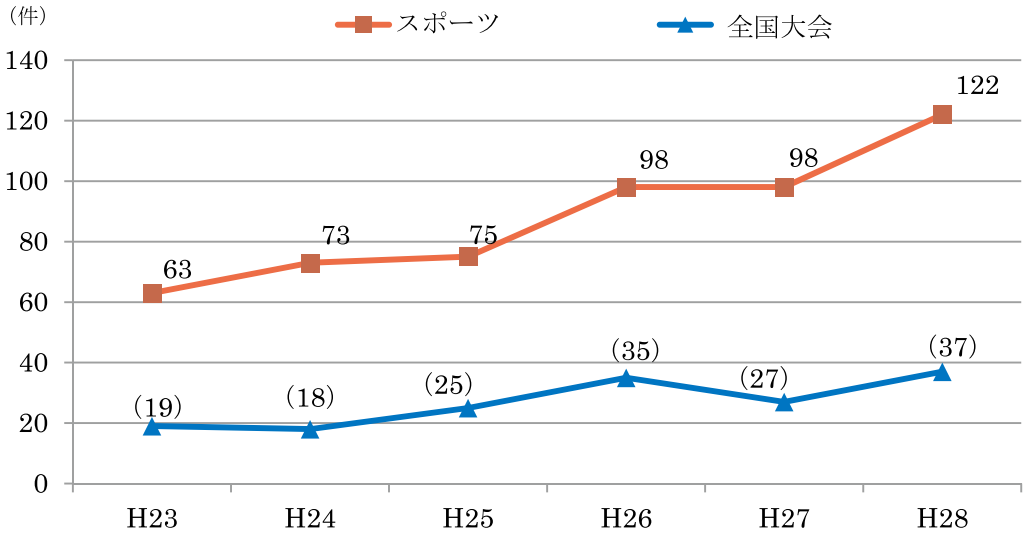
○スポーツの全国大会・国際大会の開催は、市民のスポーツへの関心や競技力の向上に寄与するとともに、本市の魅力を対外的に発信できる貴重な機会となっています。また、多くのスポーツ関係者や観戦者が訪れることにより高い経済効果も期待できます。そのため、本市では、市内で開催されるスポーツの全国大会・国際大会等に対して、負担金（※１２）を交付し、開催を支援してきました。

○大規模スポーツ大会等の誘致に向けた受入体制については、県内の競技団体等が個別に行っており、地域の活性化に向けて観光関連団体等との連携が進んでいない等の課題もあります。今後、県内の競技団体や観光関連団体等と連携し、さまざまな機会を捉えて誘致活動を進めるとともに、地域の活性化にも繋がるような施策を展開する必要があります。

○スポーツツーリズム（※１３）については、おかやまスポーツプロモーション研究会において、スポーツ大会の開催に伴う経済波及効果を大きくするための取組等を研究してきましたが、現状は、スポーツツーリズムの考え方等が浸透していないため、地域や関係団体との連携体制ができていない状況です。また、観光関連団体との連携等が進んでいない等の課題もあります。

今後、日本スポーツツーリズム推進機構等からの情報収集や先行事例の研究等を行う必要があります。

岡山市におけるスポーツ大会の開催状況



※中国地区以上の規模で岡山市内で宿泊を伴い参加者が概ね１００人以上のスポーツ大会

※全国大会はスポーツの内数

資料：（公社）おかやま観光コンベンション協会

（参考）

岡山市で毎年開催されている主な全国大会

- 全国高等学校剣道合同錬成会
- 全国壮年男女ソフトテニス大会
- 全国選抜ジュニアテニス大会
- 桃太郎杯全国高等学校空手道錬成大会
- 全国ジュニアカヌースラローム大会

２　東京オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興

（１）東京オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ誘致及びホストタウン事業の推進

【現状と課題及び施策の方向性】

○２０２０年東京オリンピック・パラリンピック等の開催に伴う事前キャンプ誘致については、平成２８年度には、柔道競技において韓国女子ナショナルチーム、フランスジュニア強化選手、アメリカ女子代表選手の３件の誘致が実現しました。今後も２０２０年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会のホームページへのガイド登録について、新たな競技種目の追加を目指していき、引き続き県内の競技団体等とも連携しながら誘致活動を進めていきます。

○平成２８年１２月にブルガリア共和国を相手国としたホストタウンの登録を受けたことにより、今後、岡山市交流計画に基づいてＥＳＤ活動やユネスコスクールの取組をはじめ、さまざまな相互交流を行い、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック終了後もブルガリア共和国と交流を行っていくことにより、岡山市のスポーツ振興及び地域の活性化に繋げていきます。（図４）

図４　ホストタウン事業の概要

岡山市交流計画の概要

団体名	岡山県　岡山市
相手国･地域	ブルガリア

2016～（大会開催まで）

ブルガリア共和国との交流・文化等の紹介

ＥＳＤ活動やユネスコスクールの取組について、相互交流

市立小・中学校の給食でブリガリア料理の提供と説明

子ども海外派遣事業（2017～）

欧州文化首都を契機として市民訪問団の派遣（2019）

ブルガリア共和国を紹介した展覧会の開催（2018）

ブルガリア共和国ゆかりの人の岡山市への招聘

事前キャンプの誘致・受入れ

ブルガリア共和国にＰＲ

ブルガリア共和国代表選手による事前キャンプの受入れ

2020（大会中）

ブルガリア共和国選手団・関係者との交流

市民参加型の歓迎会

終了後、選手等を岡山市に招致し、観光地等を案内

パブリックビューイングによる応援

2020～（大会直後～）

ブルガリア共和国選手との交流

ブルガリア共和国チーム選手団等の招待・各種交流

ブルガリア共和国関係者との交流

５０周年記念事業

市民訪問団の派遣　（2022）

（２）競技スポーツの振興

【現状と課題及び施策の方向性】

○本市では、各競技団体が各種大会を開催し、本市のスポーツ推進に寄与すると認められる競技大会に「共催」「後援」等により開催の支援を行っています。また、平成２８年度から本市が共催・後援する大会については、本市のスポーツ・文化・生涯学習サイト「ＬＩＦＥおかやま（※１４）」へ情報を掲載しています。今後も引き続き支援していくとともに新たな支援策等も検討していく必要があります。

○本市の競技スポーツの推進を図るため、全国大会、国際大会等のスポーツ大会に出場する選手に対して、激励金を交付していますが、本制度が十分に周知されていない等の課題があるため、より一層の情報発信をしていく必要があります。

○本市では、スポーツ分野に特化した表彰制度である「岡山市人見絹枝スポーツ顕彰（※１５）」により、本市のスポーツの発展に寄与し、その功績が顕著な本市ゆかりの選手や指導者等を表彰しています（表４）。また、平成２６年度には、特に顕著な成績を収めた選手をタイムリーに表彰するために、要綱の見直しを行いました。今後も顕彰の基準等について、随時検討していきます。

○本市では、トップ選手の育成として、各競技団体が行う競技力向上事業に対して、補助を実施してきました。平成２６年度には、平成２８年度の全国高校総合体育大会や２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて補助制度の拡充を行ってきました。しかし、競技スポーツの推進として、競技力の向上を掲げる一方で、競技の普及促進のような競技人口の拡大に繋がるような事業展開ができていない等の課題があります。平成２８年度からは、（一財）岡山市体育協会へ事業移管を行いましたが、さらに効果的な補助制度としていくための検討が求められています。

○本市では、障害者スポーツの推進を図るため、全国大会、国際大会等の障害者スポーツ大会に出場する選手に対して、激励金を交付しています。また、パラリンピック等の国際大会で活躍している本市在住のアスリート（陸上競技、卓球等）の活躍は、日本中に感動を与えています。

表４　岡山市人見絹枝スポーツ顕彰　受賞者数の推移

種　　別		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
岡山市民スポーツ栄誉賞	個人	－	－	1	－	－
特別スポーツ栄誉賞	個人	3	－	2	1	7
	団体	－	－	－	－	－
スポーツ栄誉賞	個人	34	31	34	30	49
	団体	5	6	6	7	5
スポーツ功労賞	個人	1	1	－	－	－
計	個人	38	32	37	31	56
	団体	5	6	6	7	5

スポーツ振興課調べ

3　スポーツに対する市民総参加

（１）幼児期

【現状と課題及び施策の方向性】

○幼児期は、生活や遊びの中で、繰り返し挑戦したり諸感覚を働かせ体を思い切り使って活動するなど、自ら健康で安全な生活をつくり出すことを培う時期です。また、幼児期は神経機能の発達が著しく、運動調整力が著しく向上する時期であり、幼児期に運動調整力を高めておくことは、児童期以降の運動機能の基礎を形成する重要な意味を持っています。
しかし、幼児期は、公私立のさまざまな園に在園していたり、体力の個人差が大きい時期であることから、体力、運動能力を把握することが難しい時期となっています。今後、幼児期の体力・運動能力を向上させるためには、日常的な遊びや運動遊びを通して、発達に即して体力づくりができるよう工夫をしていくことが重要であり、そのため、自ら運動遊びに興味・関心を持つ環境づくりの推進が必要となります。

（２）小・中学校期

【現状と課題及び施策の方向性】

○本市では、1週間の総運動時間が６０分に満たない子どもたちの割合が、依然として高く、特に女子は小学校高学年から中学校にかけてその傾向が顕著となり、体力の二極化とともに、運動習慣の二極化が大きな課題となっています。

○小学校の段階では、学校教育の一環として記録会等が行われており、記録への挑戦や技能の向上、参加者相互の親睦が図られていますが、体力・運動能力は横ばい傾向となっています（表５）。そこで、運動の習慣を根付かせ、スポーツへの参加を活性化させるために、スポーツをすることに興味や関心を抱かせ、スポーツの楽しさを体感させることが重要です。

○中学校の部活動では、学校教育の一環として、自発的・自主的に活動していますが、少子化による生徒数の減少、生徒のスポーツニーズの多様化により、中学校運動部入部率（表６）は、約６割で横ばい状態が続いており、今後の運動部活動をはじめ青少年のスポーツ活動をどのように展開していくかの検討が求められているところです。

○学校の体育、部活動以外での少年期におけるスポーツ活動の場でもある